

いのちと森を守る活動



ダグマ山系森林再生事業 (三井物産環境基金助成・3年計画)

4月5月は受益者全員へパラゴムノキの育て方、病虫害について、今後の収穫の仕方などの研修を行いました。6月には半数以上の受益者が苗を植えました。

インタビューには、「将来の年金として心強い」「ネズミに1本やられた。気を付けている」などの声が聞かれました。



苗木の成長を調べる。左は山崎

モロの村の保健研修、自主財源 および奨学金支援事業

PIHSとの協働事業9年目の今年、自主財源と奨学金事業が新規に始まりました。水田が広がるパリンバン町バロンギス健康組合は、耕運機を賃貸してその収益を活動に宛てます。ヤシ屋根作りが主産業のティナガカン健康組合は、メンバーに500ペソの始業資金を貸して、週100枚(100ペソ)のヤシ屋根を組合が引き取り、まとめ売り(125ペソ)をします。差額25ペソが組合に入る仕組みです。奨学金は広く薄くと合計22名に支給されました。課題はP1で触れたように、収益事業では担当スタッフの手当てが賄えないことです。WE21の支援金で購入した耕運機がしっかり稼いでくれるまで私たちでスタッフ手当支援を続けることとなります。(特非WE21ジャパンみどり助成事業)



水が届きました！タンダ村&クルファンディ

数十年水に不自由していた住民のもとに、ついに水が届きました。4月末の水源保護工事に始まり、夜を徹してのパイプ敷設作業(写真は水源付近の夜営)は、ほぼ1カ月で終了し、各村の中心には水槽2基も完成しました。

事業開始時に結成された水道組合(組合長はクルファンディ村のアニチオ、副はタンダ村のアトニオ)が使用料徴収と日常の点検に当たります。ふたつの村の中間のカンプアルテク地区の研修施設にも蛇口ができました。7月には鉱山開発反対のセミナーが開かれたほか、山腹斜面に果樹や野菜の研修農園を作りたいと、水道開通によって夢は広がります。巡回診療時の指導により、消化器系疾患の予防、乳幼児の死亡率減少に期待したいものです。



◎当会として14件目の簡易水道建設、今回は日本国際協力財団の助成と自己資金は松尾基金を充当して実施しました◎

CMIPヘルス担当・ジョジョの報告(4-6月)

- * 入院・治療支援患者数合計 104名
<病名別>インフルエンザ/肺炎 47・高血圧 11・脱水症と急性胃腸炎 3・歯痛 4・回虫症 11・外傷 2・膀胱炎 8・皮膚病 8・アムバ性下痢 3・精神疾患 1・デング熱 1・腸チフス性高熱 2・はしか 1・結膜炎 2
<受入施設別>ゼネラルホスピタル公立病院 56、民間診療所・病院 6、CMIPクリニック 42



- * 巡回診療:4月パライツイ村、6月ルビ村(受診患者531名、うち歯科は78。写真の夫婦の無償診療)
- * CMIP地域医療保険(グリーンカード)料徴収(4月2,360ペソ、5月780ペソ、6月910ペソ)
- * 奨学生医療支援:精神疾患のハイスクール3年エドナは専門医のアドバイスで休学、治療に専念。3月に死亡の姉と同じ難病ではと心配されたチャーメインはアレルギー疾患との最終診断により、食生活に関する指導を受けている。
- * 常備薬配備:水道工事現場(5/17)と新学期が始まる各学校(5/31)へ応急措置用常備薬配備